

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490800093		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり萩		
所在地	竹田市萩町4575-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和6年3月31日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた敷地の中で時分の思いを大切に自立した生活が出来るよう支援していきます。13年の間庭に実のなる木を植え続け今では、ぶどう。ブルーベリー、ピワ、イチジク、柿がたくさん実をつけるようになり入居者さんと収穫ができ楽しみになっており、ヨーグルトソースを作ります。コロナ禍において地域の方々との交流もない年でしたが、少しずつ面会を解除して家族の方と会えるようにしました。今後も穏やかに生活できるように手助けしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ぐるりと祖母傾山、阿蘇・久住連山に囲まれた自然豊かな場所に位置している。
- ・全ての食事は事業所内で作られ、料理する音・匂いを感じる事が出来る。
- ・職員はいつもにこやかで利用者本位の支援に心掛けている。
- ・24時間対応の協力医との連携で安心して暮らす事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ自立支援を実施している。職員のほとんどが地域に住み地域に貢献している。	理念を玄関や事務所に掲示している。利用者の想いを理解し、共感して自立した生活を送れるように職員全員で取り組んでいる。地域との共生を目指して関わりを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為トマト愛の定期便だけでしたが今年は荻町のふれあいフェスタ地域の方々と交流の機会がありました。	定期便として地域の人がトマトを持って来ている。町内のふれあいフェスタがあり利用者と一緒に参加した。施設内にデイサービスがあり地域の人に来ており、交流が継続して行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	暮らしのサポートセンターしらみず、キャラバンメイトの活動を(ビラ配り、幼稚園慰問)行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員さんの参加は良好で報告、ご意見等活発に話し合いが出来ている。	対面での開催である。事業所の現状を報告して参加者より意見をもらっている。包括支援センターから色々な情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携は良く出来ています、実施指導も今年はありません。地域包括とも連携が取れている。	何かあれば直ぐに市に相談している。災害時のトイレ用の水を確保するため地下水を掘りたいと、市に相談してアドバイスをもらっている。補助金で全館の電球をLEDに交換した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で振り返りを行って、職員による施設内研修に取り組んでいる。	全体会議で日常的に拘束について振り返りを行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、利用者の自由な行動を妨げていない。毎年内部研修をしており意識しながら拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアと同じく、職員の意識向上に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をしている、今年は物価高騰により初めて料金の改正を行いご家族様に状況を説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは何時でも気を遣わずに話が出来るように努め、ライン等を活用している。	面会時に意見や要望を聞いている。利用者も職員も地域の人が多く、馴染みの関係で話しやすい。遠方の家族とはラインを利用して普段の様子を撮った写真を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気楽に話し合える環境にある。	会議時や普段の業務中に意見を聞いている。お互い意見や希望が言いやすい雰囲気の中で活発に話が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にあると思っている、経営状況は良くないが努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を進めている、本人のスキルアップを望んでいます、個々の状況は掴めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所時から同業者との交流があります、又同じ研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成にあたりケアマネ、職員が本人の暮らし方、家族の想いをよく聞いてプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの作成に時間をかけ家族との絆、関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安や困りごとに寄り添って話を聞く様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉遣いに気をつけ、なんでも伝えてくれるよう、家庭的な雰囲気の中で暮らしていけるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長くなると看取りの方もいて、御家族とも親密な関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会室を作り早くから面会の解除に努めて極力歓迎をしている。	玄関横に面会室を作り気楽に面会に来れるようになった。地域の親戚や家族等の面会で賑わっている。バスを借りてドライブに行こうと計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の顔が見えるテーブル配置にしている、一緒にゲームに参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知り合えたことに感謝して今までと同じ様に良い関係に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さんとの話し合い(入居者会議)を開催して希望に添えるようにしています。	利用者の皆さんに行きたい所や食べたいものなど希望を聞いている。普段何気ない話の中から思いを聞いたり、家族にも意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との懇談に努めています、生活歴を詳しく知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人ひとりの状態観察に努め、都度、職員間で相談しながら把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者とケアマネが連携してモニタリングを行い他の職員と共有し、介護計画を作成している。	ケアマネが担当職員から利用者の普段の様子を聞いたり、直接利用者と話す中から情報を得てプランに反映している。3か月に一度見直しをしている。状態が変わればその都度プランを変更している。家族にも説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度気が付いたとき情報を共有し、記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院定期受診日、御家族対応が難しい時は職員対応で行う。今日は自室で過ごしたいなどの希望は希望優先。等、柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は大切と考えています。高齢化が進んでいますが、今年も門松有志の方々との協働で立派な門松が出来上がりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年のかかりつけ医との信頼がご本人、家族ともにあり、また事業所も医師と良い関係にあり相談でき、希望にそえている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を利用することが出来る。24時間対応の協力医がありこちらに変更する利用者もいる。月2回の訪問診療がある。受診は家族対応だが、できない場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場スタッフで共有し、主治医へ連絡をしたり、往診時に相談や報告を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の病院の地域連携室とは日頃から連携できている。家族に代わり入院や退院のサポートも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から家族の意向に添えるように話し合いをし、御家族、本人の意向に従い希望があれば看取りを行っている。	入居時に重度化した場合の希望を聞いている。基本的には看取りは行わないが、場合によっては行う事もある。本人・家族と話し合いながら訪問診療を組み合わせで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署と連携して行っている。	消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。火災想定で水消火器の使い方を実践し、利用者を施設外の庭に避難する訓練を行っている。地震時は地域の避難所になっている。備蓄は倉庫に1~2週間分置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳の聞こえない方が多く、時には他の方に聞こえる事がありますが誇りを傷つけるようなことはありません。居室に入る時は了解を頂いて入るようにしています。	言葉使いには気を付けている。命令口調にならず「～ませんか」と言っている。部屋に入る時は必ず声掛けをしている。記録はパソコンにその都度入力して、職員以外からは見られないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午前中の脳トレ時は、何をやりたいか本人に選んでもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前日の着替えは本人に選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近は片付けを手伝ってくださる方はいませんが、下準備は皆さん喜んでして頂いている。(梅干し作り、山菜)	3食施設内で職員が調理している。利用者には漬物の準備を手伝ってもらったりテーブルを拭いてもらったり、出来る事を一緒にしている。誕生会やお正月などの行事食があり楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握は出来ており、好き嫌いも入居時やその都度把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、異常があれば連携医師に診ていただいている。		

事業者名:グループホームしらゆり萩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを観察し、オムツ用品の変更を行ったりしながら、支援しています。皆さんトイレでの排泄を、と心掛けています。	全員がオムツ使用はなくなりハパンやパットを使用している。オムツ使用で退院した利用者もリハパンに改善した。基本的に夜間でもトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の場合、繊維質の料理で対応してうまくいっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はデイサービスがあるのでどうしても本人の都合は難しいが入りたいと言われたときはその都度対応が来ている。	週2回の入浴である。1人に1人の対応で会話を楽しみながらゆっくり入浴をしている。入浴を拒否する時は日を変えたり、声掛けの言い方を変えたりしている。脱衣室には冷暖房が完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で自由に休む事が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往症の理解があり薬の副作用等も理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に外に出る、散歩する、果物の収穫をする。歌をうたう等色々な事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で毎年のバス旅行が取りやめになり施設内で花見をする。	敷地内や近くを散歩している。山々や田園風景を楽しみながら外気に触れている。今年はバスを借りて少し遠くへ出かけたたいと計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは止めていただいている、但しバス旅行や春、秋の食事会には好きなものを買っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す様にしている、家族から手紙が来たら返事が出せるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外庭の果実のなる木が実った時には食して頂き季節を感じていただけるようにしています。食堂の席の配置にも疎外感を感じる事のない様、配慮しています。	ホールにはストーブが置かれていて暖かい雰囲気がかもし出されている。利用者同士の顔が見えるようにテーブルを配置している。庭には色々な実のなる木が植えられており、祖母山系の山々や庭の木を眺めながらゆっくりとくつろげることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームで会話を楽しまれたり、日向ぼっこされたりと心地よい空間になっていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から使い慣れた物(家具、テレビ等)を持ち込んで頂く様お願いしている。面会時に写真撮影し飾っていただいたりしている。	家族の写真やこれまで使い慣れた小物、テレビ・家具などが持ち込まれ、落ちついた部屋作りとなっている。塗り絵など利用者の作品も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ナースコールを希望する方や、照明のリモコンが手元に欲しい方など、個々の要望に応えるように努め、出来る事は行っていただいています。		